

TOKO NO.154 2009.9.10 どの子ども地域の学校へ！公立高校へ！東部地区懇談会
連絡先・春日部市大場690-3 Tel 048(737)1489 Fax 048(736)7192
メール: waraji@muf.biglobe.ne.jp ホームページ: <http://members.at.infoseek.co.jp/TOKOnews/>



共に学び・育つための就学相談会



先輩の親や大人になった障害のある本人・関係者がご相談に応じます

10月30日(金) 10:00～14:00 (各自昼食をご持参ください)

越谷市北部市民会館(予定) 048-978-5311 越谷市恩間 181-1 (大袋駅から西へ徒歩10分)

受付9:30～ 開会10:00

- 10:00～11:00 資料説明、体験報告
- 11:00～12:00 グループ相談会
- 12:00～13:00 昼食しながらフリーに
- 13:00～14:00 個別相談



資料代: 500円

みんなの悩みを出し合おう

近所のお友達と一緒に育てたい。でも就学相談
では別の学校が望ましいと言われて
高学年になったらついていけないし、
いじめられるんじゃないかしら
お子さんに合った教育を受けなかったら、
大きくなってから後悔しますよって
自閉症の大人の人って、どうやって暮らしてるの？
働いてるの？

就学時健診って受けなくちゃいけないの？
体も言葉も障害が重くても一人暮らしてできるの？
特別な学校や学級から通常学級に戻れるの？
通常学級の支援員さんって？
障害が重い子は特別な学校しか行けないの？
親が付き添わないといけなんでしょうか

わらじの会・どの子ども地域の学校へ！公立高校へ！東部地区懇談会(TOKO)

〒344-0021 埼玉県春日部市大場 690-3 谷中耳鼻科・黄色い部屋内

<http://members.at.infoseek.co.jp/TOKOnews/>

参加希望の方は10月26日(月)までに下記へご連絡下さい。家族・本人以外の方の参加も可。保育のご希望も連絡を。

白倉 048 752-7351(TEL&FAX) 中山 090-2202-5271 山下 048-737-1489(FAXは048 736 7192)

揺れながら、一緒に

新井 茜(さいたま市)

(昨年の就学相談会にお見えになり、いまは地元の普通学級でお子さんが学んでおられる新井さんから相談会の後にTOKOにいただいた文章の一部をご紹介します。)

サークルや園生活を通して娘の成長を実感する反面、就学という乗り越え難い壁が迫ってきている。生活するぶんにはあまり不都合を感じないが、学習面になると話は別。年長の2学期も終わろうとしているのに、数字や文字の認識がまだまだ不十分なのだ。ようやく興味が出てきたが、習得するまでに時間がかかるタイプなので、無理に教え込んでも仕方ない、と積極的に働きかけていないことも要因のひとつかもしれない。今の発達状況からすると、特別支援学級でゆっくり取り組める環境の方が娘の自信にもつながるだろう、と考えていた。ただ、自分だけの偏った思いだけで決められるほど簡単な問題ではなく、たくさんの方の意見や考えを参考にしたい、と思っていた。

新聞でTOKOの就学相談会があることを知ったのは、ちょうどそのころで、「どの子ども地域の学校へ」という考え方が衝撃的だった。学校の間だけ特別支援という制度に守られていたとしても、いずれは社会に出ていかなければならないこと。いつまでも親が付き添ってはられないこと。子自身の本当の自立とはどういうことか。

あの相談日以来、普通級という選択肢があることに遅まきながら気付き、かなり揺れ始めてしまった。たくさん体験や経験をする日々の積み重ねが、「自分」を形作っていくとしたら、それができる場所はどこなのか。あまり欲張りすぎると娘自身がつぶれたり崩れたりしないか。どこに就学しても悩みが尽きないのであれば、周りと同じ普通級に入れるのが当然じゃないか。現実には支援が必要な娘の現状や課題を見ないふりをして、親の希望を押し通そうとしていないか。そもそも、どうして普通級と特別支援学級があるのか。悩みは尽きず、答えはまだ出そうもない。

入学がゴールではないことは分かっているが、その先に待つ生活は想像すらできない。どの場を選んで娘と一緒に成長して行きたい、と今はただ覚悟を決めるだけである。



分けないで！ 泣き寝入りせず声を - 「就学支援」という強制

宮代町レポート

田中 和美



宮代町では、毎年10月の就学時健診後に学校から知能検査の打診があります。1年生の時には初めてということで受けたのですが、2年生の時には拒否しました。それなのに「結果が出ました、来て下さい。」というのです。テストも受けてないのに何の結果が出るんだろうと思って行くと、「どうですか、普通級に行くのは苦しいんじゃないですか。」という話が出ました。「でもみんなと同じように育てたいので普通級でお願いします。」と言うと、こんこんと説得が入ります。それにもめげず「お願いします」と言うと、「何の手だてもありませんからね。」と言われて、「それでも結構です。お願いします。」と言って入れてもらっている状態です。

1年、2年、3年、4年と毎年呼ばれて、こういった教育委員会とのやり取りがあります。結果が出る前に1回学校の方に呼ばれたんですが...春日部養護と宮代養護のコーディネーターの先生、うちの学校のコーディネーターの先生がいて、あと教育委員会の人、学校の校長、教頭、担任、みんな勢ぞろいするんです。そこに親一人入っていき話をしたんですが、宮代町の養護学校の先生は、「今お子さんはこういう風に育っていったら、こういう風にしていってたらどうだろう、こういう風に学校で指導していけば伸びるんじゃないか。」とか。そういうことも教えてもらえるので、それはそれですごくありがた

いんです。でも、教育委員会の先生からすれば「あなたのお子さんはここにいるのは厳しいんだよ。4年生の時は4年生のカリキュラムに沿ってやらなければ意味がないんだよ。」ということをごんごんと言われます。

私は比較的ガーツと言ってしまうので、教育委員会の人に言われてもそんなに苦しいと思うことはないんです。主人と2人で、それはおかしいだと、教育委員会に言いに行ってしまうので、あまり苦しいなというのは感じないんですが、他のメンバーは毎回呼び出されて説得が入るのがすごく苦しいって泣き出してしまうお母さんもいて、そこでちょっとTOKOに相談に乗ってもらったという今の現状があるわけです。

そして、自分達はこういう結果を求めていないのに、こういう結果が出てくるというのはどうしたことなんでしょうかと教育委員会の方に行って質問しました。そうすると、「宮代町ではこうやっているいろんな人を揃えて、この子に対してどこが一番いいかを協議しているのに、その協議に従えないの?」とか、「何もしてあげられないよ。」とか、言われたんです。3年生の時にはうちの子は教室から出て遊びに行ってしまう子だったので、補助の先生が付いたんです。で、「その補助の先生も1年間だけだよ、4年生になったら付くかどうかわからないからね。それでも行くの?」って言われて、「それでも行きます。」って言って。私に対しては教育委員会の人もこいつは言ってもきかないなという感じですね。言うことはきついんですけれども私も倍以上にきつく返すんで、先生は半分以上諦めたって感じなんですけれども。他のお母さんに聞くと、そこまで言われるのってくらいきつく言われたりします。

今年1年生に入ったばかりの男の子は知能検査をしたんです。2歳前後の知能しかないのにここに連れていいのというのをすごく言われて、その結果を聞くのだからってショックなのに、それに輪をかけて言われたのがすごいショックだったみたいです。その話を教育委員会の方に、こういう言い方はおかしいと、みんなそろって言いに行ったら、「私達宮城代町はこんなに頑張っているのにあなた達は何なの」ということを言われました。でも最終的に「県の教育委員会の方に尋ねてみます」ということを最後に一言言ったら、教育委員会の先生は「え、え、え」となって、「県の教育委員会はまた管轄が別だからそこで聞いてもあれだよ」とか、「呼び出しも別に強制じゃないんだよ、拒否してくれてもかまわないんだよ」ということを言い始めて、「いや、でも私が拒否したらそれでもって呼びましたよね」って言ったら、「いやいやそれも言ってくれば」ということを一生懸命言い始めて、よっぽどやってはいけないことをやってたんだなというのを感じて帰ってきました。

宮代町は教育委員会がすごく強く出てくるのであって、今通っている小学校の校長先生も教頭先生もコーディネーターの先生も担任の先生も良い感じです。子供が教室にいられなくて教科書持って職員室に行ったらいいんですけど、教頭先生と一緒に勉強しようって言って来て1時間くらい歌歌って帰ってったぞーとか、そういう報告を受けて、子供は先生の事パパって言ってすごい楽しい学校生活を送っていたんですよ。だから、教育委員会がすごく強く出てくるのであって、うちの学校の中では補助員さんもきつと付けた方がいいよね~という感じで付けてくれるので、今の校長が変わらなければうまくいくのかなと思います。この後5、6年生の2年間いてくれたらいいなという校長です。教育委員会だけですね。どうにかならないでしょうか。今後とも何かあったらよろしくお願いします。

川口市レポート

熊谷 保江

1年生で就学児健診を受けた時に、まず川口市の教育委員会に呼び出されました。特別支援学級の体験入学をしてくれとかなり言われました。「それはしてもいいですよ」と言ったんですが、本人がたまた

まその時体調が悪かったのでお断りしました。そうしたら、「もう決まっていることなのに急にそんなこと言われても困る」とか向こうの都合を言われました。私が何を言っても「困る」の一点張りだったのに、主人が電話して、「普通学校では体調が悪ければお休みするし、体調が悪いのに行かせてもうちの子に何かあったらどうしてくれるんですか？」と言ったら、引き下がって、「今年はまだ間に合わないのでもいいです」と言われたんです。



入学して2年生の時に体験入学行ってくれと言われました。それは行かせたんですけど、子供の体験入学の意味が分からなかったんです。けっきょく子供の様子を見てどこの就学先がいいか判定するためだったんですね。でもちょっと行ってみるのも子供のためにいいかなと思って行かせてみたら、子供がすごくしょんぼりして帰ってきたんです。体験先の学校ではダウン症の子が一人しかいなくて、しゃべらないお子さんとかもいたので、うちの子が話しかけても返事をしてくれなかったらしくて、それがすごくうちの子は悲しかったみたいで。それをちょっと引きずってしまって午後から学校に戻る時も私の影に隠れてお友達のところへすんなり入っていけなくなっちゃったんです。

だから、次の3年生の年も体験入学行ってくれと言われたんですがお断りしたんです。でも、「子供が去年帰ってきた時に様子がおかしくなってしまったので行かせたくないです」と言って断ったら、「行ってもらわないと困る」と言われました。「行ってもらって判定が出て、でもそれが普通級の判定が出ればいいですが、出なかったとしても教育委員会が話し合いの結果普通級に行く事を認めてくれないと補助の先生の手配もしてくれなくなるから行ってもらわないと困る」と言われたんです。でもうちは拒否しまして、かなり学校側からひどいことを言われました。「とにかく転校してくれということですか？」と聞くと、「まあそうは言っていない」と言うんですけど、「来年もしこの学校にいるとしたら担任のなり手がいない」とか、かなりひどい事をいろいろ言われて、「お子さんのことをとにかく一番に考えてみてください」と言われます。

私もカチンときました。子供のことを誰より一番よく考えているのは親である私で、生まれてから1年365日今までの間一日も子供の事を考えなかった日はないのに、「お子さんの事を一番に考えたらこういう判断にはならないはずだ」という言い方がすごく頭にきました。「子供のことを一番に考えているのは私だと自負しておりますし、別に学力を上げてくれと言っているわけではないので、とにかくこのままこの学校で」とずっと言い張りました。「教育委員会に相談に行ってくれ」とも言われたんですが、「うちの方では相談することないんですけど」と言ったりもしました。

こちらの会の方で県との交渉の時に意見を言わせていただいたりしたのが良かったのか、それとも校長先生が変わったのが良かったのか。個人的にも教育局に「体験入学とか行かないと先生の数確保できなくて実際に困ったりすることがあるんでしょうか？」と、校長先生が言ったことが本当かどうかを問い合わせたりもしました。どれが良かったのかわからないんですけど、去年は体験入学に行ってくださいと言われてませんでした。

ただ、本人の安全のために朝と夕方の送り迎えだけはお願いしますと言われました。本人は一人で行って帰ってこられるんですけども、それくらいなら私も子供の友達とコミュニケーションを取りたいので、それはやりますと言いました。その前の年までは、「午後の授業では飽きちゃって大人しくしてられないから付き添いをしてくれ」とも言われていたんですけど、担任の先生もあまり気になさらない方だったのか、去年の4年生から一切言われなくなりまして。今年に至っては、年度の始めに校長先生から「ちょっとお話しいいですか」と言われて行ったのですが、「今年もこの学校でということでもいいんです

よね？ちょっと確認だけしたかったもので」と言われて、あとは臨海学校をどうするかというお話と、「去年同様送り迎えはやっていただけるんですよね？」という確認でした。あと、「学力は担任がそこまで指導できないので、学力が上がらないということでもよろしいですか」ということを言われたので、「それは結構です」と言ったら、それ以来もう一切何も言われなくなりました。

去年からすごく精神的に楽になりました。教育委員会も何も言ってきませんので。やっぱり学校と教育委員会が密に連絡を取っているみたいだったので、たぶん学校の方で異議がなければ教育委員会は動かないのかなと思っているんですけど。今は特別支援学級に行った方がいいとかいうのは一切言われなくなりました。

痛い目にあった・あわせた友達が大人になって

樋上 秀



僕は小学校が春日部の谷中小学校で、中学は谷原中学なんですけど、谷原中の同級生が藤祭りとかわらじバザーとかのイベントに顔を出してくれるんです。この間もバザー以来会っていなかったその同級生が藤まつりに家族と来ていて、100円のものを買わせたんですが、でも喜んで買っていきました。

僕は小中学校ともに結構いじめられたんですが、逆に今はわらじのものを買ってくれるという感じなので売りつけてます。優等生の友達にはその時は優しくされたんですけど、でも40年くらい経った今は、こうやって

わらじとかの関係で品物を売りつけたりする関係の友達というのは、結局小さい時に痛い目にあわされたり、車椅子で踏んづけたり、そういう関係の友達です。

中学の時は何とか歩いていたのですが、修学旅行の時には校長が「やっぱり時間がかかるから車椅子で行こう。」と言ったので車椅子で行ったんです。そしたら、僕の事をいじめていたような連中が僕の車椅子も散々押しまくったり、あと、僕は車椅子で散々友達の足を踏んづけたり、当たったりして。友達に聞くと、僕の車椅子に踏んづけられたというわけです。

痛い思い出が残ってるやつが結局未だにその痛さを忘れなくて、たまに会うと昔のニックネームで呼び合う、そういう関係になっています。だから、こういう痛い目にあわせた、あったという友達がたまに会うとお互いの痛さで話はできるかなって感じはしてます

いま支援学級にいて社会を考える

清水 泰江

うちの子は今は支援学級の4年生になりました。1年生の時は普通学級に通っていたんですけども、1年生の頃はやはり毎日のようにお宅のお子さんがある場所はこちらじゃないという意味のことを言われました。私はその説得に負けてしまったので2年生から支援学級に行っていて、本人も親もぬくぬく楽をさせてもらっているような状況です。本人も落ち着いているのでこれでいいのかなという感じで過ごしていますが、結局親が今までいろいろ先生に対して交渉していたこととかを、支援学級は先生がいらっしゃるのでその方が普通学級に投げかけてくれるよ



うな感じなので、とっても親は楽な環境です。

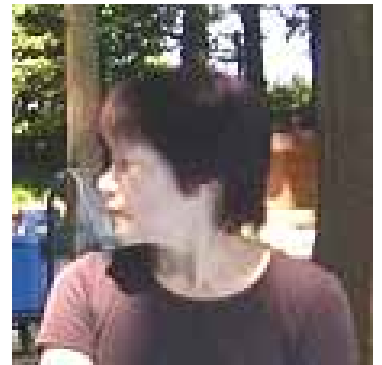
でも、大きくなるにつれて支援学級のようにずっと支援してくれるところがあるわけではないので、やっぱり社会に出た時、ずっと守られていては困るのかなというのは感じています。私は1年間だけなんですけど、いろいろ交渉した事は無駄にはなっていないですし、まるっきりこういう環境を知らないでいきなり社会に出されて、全て親がいろいろなところをしていかなきゃいけないというのはすごく大変な事で、地域でという事で、大変な思いをする事というのはやっぱり自分の財産にもなる事なので、乗り越えていくことというのはいろんな見方を作れる機会なのかなと感じています。

どんなに世代が変わろうとも一娘との42年間

白倉 保子

私の娘もう42歳になりましたけど、42年間育ててきたのと、今の若いお母さん達がこの新しい時代で育てる時の障害児の親としての立場とか、その部分はどんなに世代が変わろうとも、変わらないと思います。

私42年間娘と一緒に生きてきて、やっぱり子供を育てる親の姿を近所の人にはきちんと見えています。娘はわらじの会の地域デイケア施設・パタパタにずっと行って、うちの都合で辞めて、今は自宅から歩いて15分くらいのところの春日部の養護の重度の子供達と一緒にデイケア施設に通っています。



作業もできません。お話も、わらじに行った時は「しっ」って言うほどべらべらお話ししていたのが、養護学校の子供達は最重度なので、言葉が何も出てきません。それに話しかける先生も何も声かけをしてくれません。だから、清美がパタパタを辞めてそのデイケア施設に通いだしてから、半年以上は彼女は言葉が出なくなりましたね。わらじを週2回に減らしながら徐々に辞めていったんですけど、いっぱい話していたのがしゃべらなくていい場所にいると出ていた言葉が何も出てこなくて使わなくていいという風になってしまうんです。それはとてもとても困りました。

今年でもう5年目に入りましたが、4年目まではおはようございますと言っても返事が返ってこないんです。だから毎日おはようございます、おはようございまして親もばかみたいに頭下げて、今やっと先生方が連絡帳の中で見ると、彼女とのやり取りをしてくれるようになりました。彼女は、自分のことができなくても他人の世話はできるんですよ。前は、それが余計なことだと言われて泣いて帰ってきたんですよ。だから、娘に「あなたの取りえはそれしかない。他人のお世話係をする母をそのまま受け継いだもの。それしか残っていないから遠慮しないで、先生に怒られてもいいから、お世話係しなさい。」と毎日言っています。今もお世話係をすると「注意しました」とか連絡帳に書かれるのですが、それでも母は「お世話係しておいで」と言っています。

今いろんなところに行って、私は大変な思いをしていると思うんですが、今の大変な思いはすごく楽です。毎年毎年大変な思いをしてきたけど、子供が成長するにつれて私も成長してく



野外おしゃべり会で受付をする清美さん(左)

るし、周りの人も見てくれて声かけてくれるし、というので育てていてもすごく今楽です。

今のデイケア施設では、10時半から男の子は30分、うちのは歩くのが下手なので15分しか歩きません。でもそこで近所を散歩するので、「清美ちゃん元気に歩いてるね～」と、毎日近所の人に誰かしらにいつも会うので声をかけてもらっています。やっぱり自分達家族では、こんなに大きくなっても無理があるんです。近所の人声かけがやっぱり必要なんです。だから今大変でも、みんなの若さでこれを乗り越えてほしいんです。

学校卒業してからが長いんですよ。だから私達が今大変な思いの中で、先生ともいろんな事があったとしても、この子達の栄養剤だと思ってほしいんです。嫌な時はお互い話をすれば分かり合える人達がいるってわかるだけでも、知らないところで話をするよりすごく気が楽になるから、声に出して気を楽しにするという訓練が私達にはとても大事なので、そういうお付き合いをこのTOKOを通して、近所だったら今日顔見ない～？とかっていう風にして、そういうような機会を持ってほしいなあとと思うんですよ。



県内の通常学級在籍の障害児数は3000人近くと見られる

そして、毎年、特別な場への就学を勧められている（総合県交渉2009で判明！）

埼玉県における就学指導結果の最近の推移（埼玉県教育局の資料をもとに山下が作成）

	判断 件数	件数 増%	盲ろう養護学 校判断	特殊 学級 判断	通常学級判断	盲ろう養護学 校就学	特殊 学級 就学	通常学級就学	特殊教育適判 断だが通常学 級へ	盲ろう養護判 断だが特殊へ
1999	3520	100	582(16.5%)	1956	981(27.9%)	340(9.7%)	1529	1644(46.7%)	667(18.9%)	192(5.5%)
2000	3821	109	661(17.3%)	2062	1098(28.7%)	377(9.9%)	1603	1836(48.0%)	740(19.4%)	224(5.9%)
2001	3816	108	671(17.6%)	2036	1107(29.0%)	369(9.7%)	1655	1784(46.8%)	681(17.8%)	228(6.0%)
2002	3975	113	733(18.4%)	1956	1286(32.4%)	396(10.0%)	1634	1924(48.4%)	691(17.4%)	265(6.6%)
2003	4087	116	749(18.3%)	2025	1313(32.1%)	402(9.8%)	1632	2049(50.1%)	737(18.0%)	274(6.7%)
2004	4189	119	815(19.5%)	1981	1393(33.2%)	452(10.8%)	1632	2100(50.1%)	721(17.2%)	287(6.9%)
2005	4575	130	857(18.7%)	2175	1543(33.7%)	457(10.0%)	1769	2339(51.1%)	799(17.5%)	311(6.8%)
2006	4840	138	875(18.1%)	2287	1678(34.7%)	488(10.0%)	1835	2515(52.0%)	847(17.5%)	311(6.4%)
2007	5477	156	914(16.7%)	2523	2040(37.2%)	505(9.2%)	2052	2915(53.2%)	886(16.2%)	328(6.0%)
2008	5324	151	823(15.5%)	2677	1824(34.2%)	453(8.5%)	2183	2687(50.5%)	878(16.5%)	325(6.1%)

（%はその年の判断件数を100としたもの）

TOKO野外おしゃべり会での宮代町、川口市のレポートに見られるような通常学級在籍の子どもに対する就学指導の強制は、ほとんどすべての市町村教委で行われているのではないかと、県教育局担当者は交渉の後の会話で反省をこめて語っていました。8月25,26日に行われた埼玉障害者市民ネットワークの総合県交渉で、県教育局は、上記の表で「通常学級就学」となっている数が、ほぼ「通常学級の障害児数」に等しいだろうと答えました。

2008年度は2687人、2007年度は2915人に及びます。さらにTOKOの親子のように、共に学ぶ明確な意思表示をしている場合は就学指導の肩たたきが行われないので実数は3000人くらいになるでしょう。県教育局は2003年11月の特別支援教育振興協議会の検討結果報告書で、1111人という数字を初めて発表し、県議会でもその数字を報告していましたが、この調査自体性格ではなかったことになります。

3000人も子どもたちが共に学んでいる実態があるのに、教委ではそれらがきちんと受け止められ、支援のノウハウに役立てられるのではなく、本来ここにいるべきではない子として扱われている現状を、即あらためさせましょう。



ほんとに行ったほうがいいの？就学前の相談

就学先決定の手続きの流れの話なのですが。いま言葉の教室に行ってみて。そこに教育委員会の方が見えてお話しする日があるんです。その日にちが決まって今度お話しするんですけども、言葉の教室の先生が自分の子供の事を知ってもらった方がいいし、いろいろ相談した方がいいよとってくれているんですね。でも、そこで相談をしたところで、特別支援学級の方に絶対勧められると思うんです。うちとしては普通学級で頑張ってもらいたいと思っているのですが、私も意志弱いので下手にそうやって相談したら負けちゃうかなという意味で、自分の子供の事を知っておいてもらった方がいいのか、言わない方がいいのかどうすればいいのかなと迷っています。(幼稚園年長児の母)

A 1 会わなくてもやり過ごせるんだったら

たぶんお母さんとか旦那さん、親の思いだと思うのね。絶対芯がぶれなければ、絶対どうしたって普通学級でみんなと地域で育てたいって気持ちが強ければ、会ってもいいと思うんだけど、どうしょ～ってぶれているとツッコマレた時にやっぱり、ツッコミどころはいっぱいあるから。私と主人はけっこう強いから教育委員会とも闘って2人で乗り込んでいって教育委員会に帰ってくれて言われたり、終わってからあ～もういい！って教育委員会の人言うくらいさんざん言ってきたのね。だけど、いろいろ言われるの嫌っていうお母さん、ちょっとブレがあったりとか打たれ弱いお母さんは、何か言われるとえっ、えってなっちゃう。あとは、障害のある子供を預けて申し訳ないって思っているお母さんで、言われると結構辛いっていうのがある。一人ひとりの判断だと思うけど、聞いてると、会わなくてもやり過ごせるんだったら会わなくてもいいのかなって思いました。

A 2 やっぱり同じ意見ですね

やっぱり同じ意見ですね。私も就学前には教育相談に行きました。周りはみんな行ってるよと言われて、じゃあ行くのかな～くらいで行ったんですけど。私は赤ちゃんの頃の小さい時から普通の子の中で育てようっていう思いが強かったので、普通の幼児のサークルにも入れましたし、保育園にも入れましたし、保育園の前には週一回通うところにも入れましたし、そういう風にしてました。なので当然小学校も普通で行くぞと思ってました。むこうの方と面接をしても、なんとなく遠まわしにそういうところへ行きなさいと言っているのかなと思ったんですけど、私も図太いので何を言われても一応はい、はい、って素直に聞いていて最後にうちの子は普通学級に行きますって私は答えてました。

A 3 一緒に遊んでくれるよとか聞いて

私も同じで、教育相談は周りの人が気にしていたし、行くと専門の先生がトランポリンで一緒に遊んでくれるよとか聞いて、月に一回相談というか療育みたいなものを受けに行っています。そこで就学相談という名の、その相談所の所長さんとの最後の面談の時に、息子が簡単な試験みたいなものを受けて、その結果の話とかいろいろあったんですけど。知能指数みたいな検査の結果を言われて、まあ養護学校ですね、みたいな感じで言われました。特別支援学級みたいなレベルよりもっと低い段階なので、通常学級に入れたいという事ですけど本人が大変な思いをするんじゃないでしょうか、と。私も一人目の子供なので小学校自体どんな様子なのかがわからなくて、すごく無謀な事をしているような気がして、

すごく不安を煽られた覚えがあります。相談所の先生はお友達関係も今はあまり期待しない方がいいと言っていたんですが、実際入学してみたら、みんながみんな声をかけてくれるし、町内のお祭りとかに行っても、Wちゃん、Wちゃんと言って、いつも仲良い子がW君人気者すぎて近くに行けない、と言うくらいすごいお友達が寄ってきてくれるんです。相談所の先生とかに、入学してW君が精神的に二次障害みたいなのがあるかもしれないとかいろいろ言われると私もすごい不安だったり、迷ったりしてたんですけど、本人も学校入学前に僕ももうすぐ近所のお友達の　ちゃんと同じ小学校に行く、と当たり前と言ってたり感じているところがあったので、私も数少ない本人の尊重を少し認めてあげたかったんです。それに、その頃に来させてもらっていた TOKO のおしゃべり会で、みんながみんなわざわざ遠い学校に行かないで近所のお友達と歩いて行ける小学校に行くのが何がいけないの、みたいな、そういう普通の感覚を教えてもらえたかなと。入学前はすごくすごく不安だったんですけど、今となってみれば本人もすごくお友達が増えて毎日が楽しそうですし、地域の学校に入学させてよかったと思っています。

A 4 相談しなきゃいけないということはない

同じ言葉の教室に通っていたんですけども、その時は特に教育委員会と相談しなさいということはいわれなかったよね。相談しなきゃいけないということはないですよ。強制ではないですよ。

A 5 連絡があったら行けばいいやと

そうですね。特に教育委員会とは言われなかったし、相談に行ったら何か言われると私もなんか自信がなくて挫けそうだったので、必要以上にはお近づきになりたくなくて、だからなるべく会わないようにしていました。呼ばれたらしょうがないけどそれまでは行きたくないと思って。それでちょうど就学のことで悩んでいる時に、わらじの会を知ってちょうどタイミングよく誘っていただいて TOKO に参加する機会があったんですよ。それで決意はもう普通学級でという事で自分も固まって。だから連絡があったら行けばいいやくらいに思っていました。

A 6 近寄らないというのも一つの手

言葉の教室に行って、それはそれなりに結構よくやってもらえたんですけど、一番の収穫はこうやって他の障害のお母さん達とかと知り合いになれて、それが一番の収穫だっというような気が自分の中ではしています。とりあえず私も、下手にこっちから近寄らないというのが一番で、それは学校に入ってからと同じです。一切要求をしません。何も言いません。校長とも話をした事はありません。むこうからも何も言ってくるません。教育委員会なんて全く出てきません。なんか諦めてくれていると思います。5年に上がる時、4年生の先生と、コーディネーターの言葉の教室が学校にあるんですけど、その教室の先生と3人で話をした時も、担任が「もうIちゃんはいまさら特学とか無理だね。」っていう「もう合わないでしょう」みたいに諦めてくれたのでまあいいかなと(笑)あんまり近寄らないというのも一つの手だと思います。

A 7 こっちは相談とか一切していない

とにかく歩いて通える学校に行こうと思ったんですけど、歩いて行ける学校には特別支援学級がないんですよ。なので、通学路が近いから当然いいかなと思って普通に行っちゃいました。こっちは相談とか一切していないですね。やっぱり自分の子供で、親だったら最後まで責任取らなきゃいけないの

で、教育委員会の人とかがお子さんのために思ったらって考えてくれるような事を言っても、やっぱり最終的には身内が全てだから、私は身内で相談して決めたかったので、わざわざ相談しに行くというのはしなかったんですよ。言葉の教育とかそういう療育とかも一切行っていないので、そういうところで相談に行った方がいいよという指導をされた事も一度もなかったですね。でも、行き始めてからやっぱり普通学級に入れてよかったと思って、最初は本人がいじめられるというのもあるかなと思ったんですけど、でもうちの子たくましいからと思って。でもお兄ちゃんが「お前の弟は～」とかいじめられたらお兄ちゃんが弱いような気がしてそれはちょっと心配だったんですけど、入ってみたいいじめの子なんて誰もいなくて、お兄ちゃんが、いいな～Kは人気者で羨ましいなって、お兄ちゃんが羨ましがるくらいで。学校からも苦情があったとかいう話は一切言われていないし、入ってみて後からやっぱりよかったなって。悪い事はいっぱい覚えてきますよ。でも、それ以上に得るものが多くってよかったなと思っていて、だんだん自信を持ってきて、最近はこの学校でこのままでいきたい、と強く言えるようになりました。最初はそれほど強い意志を持って入ったわけじゃなかったんですが。

A 8 揺れているのであれば行かない方が

うちも、年少から月1の療育をやっていて、年長の9月になるとこちらからお願いしていないのに就学相談、という感じ。私何も相談することないんですけどって言うのに、勝手に就学相談でセンターのお偉い先生とどうします？みたいな面談と知能検査みたいなのをされて、養護判定だけ特学ぐらいかなって感じのことを言われました。でも私はずっと普通学級しか考えてなかったんで、とりあえずはい、はい、って聞いて、最終的な決断のところでどうしても普通学級に行きたいんですって貫き通しました。教育委員会の人には普通学級には入ってほしくないと思うので、やっぱり揺れてたり弱いところを見せれば絶対つついてきて、「あなたのお子さんのためには…」みたいな言い方はすごいされます。うちは自閉症なのですが、お母さんがもしフランス語しか喋らない教室に、あなたは日本語しか喋れないでポツンと入った時にどんな思いをしますか？きっとおさんはそんな気持ちなんだよ。親の思いだけで決めちゃかわいそうだ、みたいなことを言われて。でも、何を言われても私も普通の教室しか考えていないので、と言って貫き通しました。貫く思いがあれば何を言われても結局は最後は親が責任持ってという感じなので、貫き通させてくれると思います。ただ、やっぱり揺れてると弱い部分があります。突っついてくるし、そういう子達を分けたいがために相談をして、ふるいに引かかる子を探していると思うので、揺れているのであればなるべく行かない方がいいのかなって思いました。

第40回 共に働くまちを拓くべんきょう会



「障害者雇用ってなんだろう — 職場の中で悩む」

話し手・飛田 まりさん

(某大手企業勤務・聴覚障害者)

10月2日(金)18:30～ 越谷市中央市民会館 5階第7会議室

このべんきょう会は、障害者が地域で働くというテーマをきっかけにしながら、障害のない人の働き方や暮らし方を含めて、フリーに語り合おうという会です。1回、1回、話し手をお願いし、そのお話を口火にしておしゃべりしますので、初めての方でもどうぞおいで下さい。

今回は、今年の総会記念シンポジウムに初めて参加された聴覚障害者の松山美幸さんの「障害者雇用ってなんだろう？」という現場での悩みをお話しいたします。終了後お時間のある方は、近くファミレスで、おしゃべりの続きを楽しみましょう。

会費:200円(資料代)

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会 048-964-1819 (職場参加ビューロー一緒)

2009年7月28日

埼玉県教育委員会教育長様
埼玉県教育委員会教育委員長様

どの子ども地域の公立高校へ・埼玉連絡会
代表 齊藤尚子
埼玉障害者市民ネットワーク
代表 野島久美子

要望書

障害のある生徒の高校への受け入れについてご尽力いただきありがとうございます。

前回の話し合い(6月19日)において、「1987年秋に障害のある生徒たちが高校の門をたたき始めて以来、これまでの経過の中で県教育局と埼玉連絡会の間で確認されてきたこと」について“すでに確認済み”というお答えでした。ここに書かれている確認事項は、県と連絡会の間で話し合いを積み重ねながら、少しずつではあっても高校の門を広げてきた過程であり、うやむやにされたり反故にされることがあってはならないものです。字面ではなく、実質的に確認し引き継いでいくようよろしくお願い致します。また、その確認に基づいて、新しい入試制度において、どのような障害があっても不利益な取り扱いを受けることなく高校への受け入れが実現するよう、課題を具体化し解決に向けて教育局全体として取り組んでいただきますようよろしくお願い致します。

- 1、 7月3日に行われた中学校向けの説明会において、「障害のある受検生に対する配慮事項及び配慮が必要な場合の手続き」が実施要項に載せられたことの意味や手続きについて、どのように説明したのでしょうか。実施要項にあらかじめ記載することになったことは県の前向きな姿勢を表していると思いますが、その点についてどのように説明されたのでしょうか。

また、“「学力検査等の際配慮を要する措置についての願」が提出された場合は、得点を算出する際に配慮する。”こととなりましたが、各高校の選抜基準においてそのことが明記されていない状況で、このことについてどのように説明をされたのでしょうか。

- 2、 受検上の配慮の範囲について、「公平性を確保する上では、全てを可能とすることは難しい」というお答えでしたが、“全て”というのは具体的にどういう配慮のことでしょうか。“全て”と括ってしまうのではなく、実際に求められた配慮について障害による不利益の点から考えてみる必要があるのではないのでしょうか。また不利益が残されたままでは、公平性の確保とは言えないのではないのでしょうか。

また、新しい入試制度では点数化により公平公正に判定するということですが、そのことが障害のある生徒にとっては不利益性を増し、公平公正とは矛盾していくという面があります。そのことをどのように解決していくのでしょうか。

- 3、「学力検査等の際配慮を要する措置についての願」について得点を算出する際に配慮するとしたことは大きな意義があるという前回のお答えでしたが、現在出されている各高校の選抜基準に従って(明記されていないので、仮にその他の項目の得点として)点数化してみても、障害が重く点数がとれない生徒にとっては極めて不利になることは明らかで、障害のある生徒の受け入れを進めていくことにはなっていません。障害のあることにより、不利益な取り扱いをすることがないようにするために、再検討してください。

そのうえで、各高校の選抜基準を定める権限や入学許可権限は校長にあるということですので、不利益にならない選抜基準を設け、受け入れていくよう校長を指導してください。

- 4、何年も浪人を重ねたものの、最終的には高校現場へ受け入れられた成功例として朝霞高校定時制の佐久間奏さんの例を前回の話し合いで上げられましたが、吉井英樹くんの受け入れを実現するために、吉井くんが高校現場の教員と出会い理解を進める取り組みを実施してください。生徒の福祉教育、教員の研修、体験通学などで、可能な方法を探って実施できるよう日高高校にはたらきかけてください。

* 文書にて回答をお願い致します。



TOKOPEDIA (前頁の高校問題要望書についての解説)

1) 障害のある受検生に対する配慮

入試選抜制度という競争試験を受けるときに、障害により不利益を受ける生徒に対し、その不利益を補うための配慮をしなければ公平ではないということが、埼玉県では1983年、全盲の生徒が県立高校を受けたときに、公に認められるにいたった。このときは別室受験、点字受験、時間延長などが認められた。その後、どの子も地域の公立高校へ埼玉連絡会が発足し、1988年、それまでの「身体障害による不利益」に対する配慮が、知的障害を含む「障害」すべてに拡大された。知的障害とは、いうまでもなく抽象的な表現が理解できなかったり、本人の考えを周りが理解しにくい障害であり、東京都や神奈川、千葉県教委では、問題を選択式に直したり、日常コミュニケーションが成立している人に代読や代読を担ってもらえるようにしたり、それでも解消しきれない不利益を考慮して、得点を加算するなどして、可能な限り受け入れてゆく取り組みが進んでいる。しかし、埼玉県では、問題の作り方が選択式に直しにくい形になっているとの理由で、選択式への修正はなされていない。ただ、今年度から実施される新しい入試選抜制度では、「受験上の配慮を要する措置願」を出した生徒については、上記首都圏の各都県になって、得点上で一定の配慮をすることになった。とはいえ、中学、高校にそのことの意味が広く伝えられていなければ意味がないわけで、要望の1は、それについて問うている。

2) 不利益はほんとうになくなるのか

上述したように、他都県では実施されている記述式から選択式への問題の変換について、埼玉では困難という場合、そうした問題の作り方を変えるなり、それが不可能なら出来る限り点数を付けるなどの対応をしなければ、公平性は確保できないのではないか。また、これまでは各高校ごとの校長の裁量がかなりあった部分を、「公正性」の名の下に点数化し、各校の選抜基準も公表されるようになった来春の新入試制度では、点数が取れない、知的障害のある生徒はこれまで以上に受け入れることが難しくなるのではないかと。要するに、制度全体が知的な障害のある生徒には不利益を増大させることになっているのではないかとということ。

3) 受け入れてゆくための制度見直しと高校への指導

上に述べたことは、県立高校を県民の子弟すべてにとって、公平・公正な学びの場としてゆくべきだという前提に立っている。知的な障害のある生徒にとって不利益でないようにということは、勉強は出来ないが高校に行きたいという生徒をも受けとめてゆく高校であるべきだという考えにつながる。県民の税金で運営されている以上、障害の有無やできるできないにかかわらず、希望する生徒を受けとめ、他の生徒と共に学ばせ、地域社会に送り出してゆく、地域に根ざした高校になってほしい。とくに、障害のある子供たちを、幼い頃から他の子供たちと分け隔てる義務教育制度が存在し、県議会でその制度の改廃と共に学ぶ支援の必要性が満場一致で確認されているいま、県はそのような厳しい教育状況とせめぎあって高校の門を叩いた障害のある生徒たちを受けとめ、県直轄の公立高校を共に学び・共に生きる体験の場にしてほしい。県教委の中には、高校は子守の場ではないのだから、定員割れでもできない生徒は落とせと主張する委員がいるが、県立高校は「15の春を泣かせない」ために増設されてきたことを再度想い起すべきだ。

4) 受け入れを実現するための関わり

2002年春の入試で、佐久間奏さんは8年目にしようやく朝霞高定に入学した。どの子も地域の公立高校へ埼玉連絡会代表だった門坂さんは、当時こう語った。「昨年(2001年)の朝霞の研修は、なまの形で2週間学校に入り込み、一緒に授業を受けた。一見分かりやすい表面的な理解ではなく、なまの『福祉教育』として、学校が受け入れてくれたことに拍手したい。福祉教育のあり方として、他の学校でも何らかの形としてやっていただければと思う。」また、当時教育局を代表して交渉に当たった矢次指導幹は、「朝霞については、局として事前協議ということではないが、話し合いはきちんとした。今回入っていただいたことが継続していけば、おっしゃる趣旨がひろがっていくと思う。」と語った。

コミュニケーションができないことがずっと不合格の理由の一つになっていたが、入学後はそうした先入観は解消した。2004年に齊藤くんを受け入れる前に大宮商業定の教員たちが朝霞高定を見学した時の調査報告書では、奏さんに関し朝霞高定では、「ほとんど皆勤であることから進級に関し否定的な意見は少ない」、「担任としては特に苦勞している事はない」と書かれている。教員たちがさまざまな障害のある人々から分け隔てられて生きてきた、その人生が問われている。高校という場とそこでの学習や生活のありようを、ひろく世界にひらいてゆくためにも、重い障害のある人を含めこれまで門を閉ざしてきたさまざまな生徒達を受けとめ、つきあってゆくことが大切だ。



誰でもいつでも参加できるイベント情報



月日曜	開始	イベント名	会場	連絡先など
9.10 木	14:45	高校問題教育局交渉	埼玉会館	どの子も地域の公立高校へ埼玉連絡会 048-737-1489
	19:00	世一緒 de キネマ	職場参加ビューロー・世 一緒(越谷駅東口10分)	障害者の職場参加をすすめる会 048 964-1819
14 月	19:00	どの子も地域の公立高 校へ・埼玉連絡会事務局 会議	ぺんぎん広場(南浦和駅 より15分)	どの子も地域の公立高校へ・埼玉連絡会 048-737-1489
16 水	10:00	障害者の職場参加を語 る会	職場参加ビューロー・世 一緒(越谷駅東口10分)	障害者の職場参加をすすめる会 048 964-1819
17 木	13:30	総合県交渉ふりかえり と今後の計画会 (終了後懇親会(割り 勘)の予定)	すこやかプラザ(埼玉県 社会福祉協議会ビル:JR 与野駅10分)の2階研修 室1・2	埼玉障害者市民ネットワー ク事務局 大坂富男 090-4938-8689
21 ~ 23 月 ~ 水		今年も来たぜい! 大洗キャンプ	茨城県水戸市川又町キャ ピタルオートキャンプ場	わら細工 048-738-4593 バタバタ 048-733-2743
27 日	10:00	越谷市民まつり出展	越谷市役所周辺道路	障害者の職場参加をすすめる会 048 964-1819
	10:00	バザーしわけ・値付け	谷中耳鼻科駐車場など	バタバタ 048-733-2743
10.2 金	18:30	第40回共にはたらくま ちを拓くべんきょう会	越谷市中央市民会館5F	障害者の職場参加をすすめる会 048 964-1819
4 日	10:00	わらじバザー最終準備	谷中耳鼻科駐車場など	バタバタ 048-733-2743
10 土	10:00	わらじバザー搬入	くらしセンターベしみ他	バタバタ 048-733-2743
11 日	早朝より 準備	第32回わらじ大バザー	せんげん台東口・せんげ ん台第1公園	バタバタ 048-733-2743

わらじ大バザー会場内に今年も

「共に学ぶ・共に働く」のコーナーを設けます

と き : 10月11日(日)

と ころ : せんげん台第1公園

バザーのショッピング、手伝いがてら、お立ち寄り
ください。

相談のある方、おしゃべりしたい方もどうぞ。



2007年北越谷駅前さくら広場でのバザーで

TOKO NO.154 目次 10.30 就学相談会のご案内 1 / TOKO 野外おしゃべり会
記録 2 / 通常学級在籍の障害児数は 3000 人 7 / ほんとうに行ったほうがいいの? 就学前
の相談 8 / 高校問題要望書 11 / TOKO PEDIA 高校要望書の解説 12 /
総合県交渉2009で卒業生達が語った / いつでも参加できるイベント情報 14

TOKO が初めてお手元に届いた方へ

TOKO を初めて目にした方へ

子ども達を分け隔てなく育てるために

どの子も一緒に地域の学校へ通えるように

地域へ、行政へ、働きかけている会です

ぜひ、一度のぞきにきて下さい 待っています